

代表質問

3月7日に5会派が代表質問を行いました。質問と答弁の概要をお知らせします。また、議会ホームページでは、インターネットによる動画配信も行っています。



QRを読み取ることで、各議員の質問の様子を映像にてご覧いただけます。

策を展開し、中心市街地のさらなる活性化につなげていきます。
第2期中心市街地活性化基本計画で目標としている「日常的なにぎわいにあふれ、魅力的な店舗やオフィスなど都市機能が集積する豊かな暮らしが実感できるまち」に近づけるよう、引き続き精力的に施策を推進していきたいと考えています。

豊かな自然環境が育んだ文化に財産的価値がある

Q (仮称)森の文化博物館における市長の思いと今後のスケジュールは。

A 戦後、私たちの生活は豊かで便利になりましたが、エネルギー革命による化石燃料への依存で人は森から離れ、気候変動や自然災害の増加など地球環境の悪化を招いています。また、動物たるヒトの暮らしが自然と隔絶することでさまざまな弊害が生じていると感じています。
古来、私たち日本人は、国土に広がる豊かな自然と共に暮らし、森の恵みを利用して、独自の生活様式や文化を育んできました。



鈴鹿の森全体が博物館

した。自然と人とのつながりや、風土の中で育まれた文化を再認識し、森と人、自然と人とのつながりを取り戻すことがさまざまな課題に直面する我々にとって、今、早急に取り組まなければならないことだと捉えています。それを具現化する政策が、鈴鹿の森の自然と歴史文化をテーマにした(仮称)森の文化博物館の整備です。
この博物館は、単なる建物としての施設を意味するものではない。



東近江市民クラブ

人が集い新たな物語がはじまる中心市街地

Q 夢のあるにぎわいの創出や商業振興に向け、市長が描くこれからの中心市街地の姿とは。

A 人口11万人余りを擁する本市において、市民の皆さんが買い物や飲食、余暇活動などで1日楽しめる中心的な場所が必要であると考え取り組んでまいりました。

ホテルや複合ビルが完成し、新規出店が85店舗に上るなど、ここ数年で少しずつ具現化されていると思いますが、まだまだ道半ばであり、さらに充実させていかなければならないと認識しています。

この4月からは八日市駅前に大学のキャンパスがオープンし、学生が駅前を歩く新たな風景が生まれます。さらに大学では市民講座の開講が予定されており、文化教養の面でも中心市街地が充実するものと期待しています。

なく、多様性の高い鈴鹿の森を活用したフィールド博物館と位置付けて取り組むもので、森の恵みを暮らしに生かした木地師文化発祥の地として、また、森里川湖が連続し生物多様性に富む豊かな地域だからこそ成し得るものと確信しています。
現在、鈴鹿の森の歴史や自然などの調査を進めるとともに、基本計画の策定に取り組んでおり、令和6年度に基本計画を策定した後、建築や展示設計に着手したいと考えています。

未来に希望をもちながら生き生きと学ぶ学校

Q 魅力ある学校づくりとは。また、今後の不登校対策の進め方は。

A 魅力ある学校とは、まずは学校がしっかりとした教育理念を分かりやすく示し、子どもたちが未来に希望を持ちながら生き生きと学ぶ学校であると認識しています。

本市が進めている魅力ある学校づくりとは学級会や生徒会、学校の行事を軸とし、子ども同

山本 直彦



また、八日市駅の東西連絡路の設置に向けた検討を開始します。延命公園の再整備との相乗効果により連絡通路が新たな人の流れを生み出し、八日市駅東西の一体的なにぎわい創出が期待できるものと考えています。
加えて、引き続き空店舗改修への支援を行うほか、市内店舗への誘導策など新たなソフト施



にぎわう聖徳まつり

士のつながりを作る、また個性を輝かせる取り組みです。
長年行っている中学校生徒会交流会や令和4年度から始まった中学生議会の生徒の姿は輝いており、子どもたちが学校で学んだ基礎知識をもとに、教科書のない応用問題である特別活動に取り組むことは、魅力ある学校づくりに直結するものと期待を寄せるものです。
一方、年々増え続ける「不登校」は、学校教育の大きな課題



昨年行われた中学生議会